

福岡県の主な農産物の生産状況

平成 31 年 2 月 15 日現在

(専技情報より抜粋)

◇麦類◇

11 月中下旬播きの生育は、草丈が長く、茎数が多く、現在 6 葉期前後で平年より 10 日程度早いです。茎立ち期は平年より早く、2 月 3～5 半旬と予想されます。12 月播きは 5 葉期前後で平年より 10 日程度早いです。現在、麦踏みや土入れ、追肥作業が行われています。雑草の発生量はやや多いです。

排水溝さらえや排水口の整備等を徹底し、表面排水を促し、茎立ち期前までに踏圧・土入れを実施し、生育を確保しましょう。2 回目の追肥(穂肥)は、食料用大麦と裸麦では 2 月中下旬、小麦では 2 月下旬～3 月上旬に施用しましょう。今後、タデ類やカラスノエンドウなどの広葉雑草の発生が予想されるため、早めに対策を実施しましょう。

◇冬春ナス◇

1 月は日射量が多く、一部成り疲れしたほ場もありますが、全体的に草勢は安定しています。2 月に入り、着花(果)数が最大となっており、2 月下旬以降、出荷量が増加する見込みです。首細果、曲り果等や曇雨天後には日焼け果が発生しています。また、すすかび病、菌核病、茎えそ細菌病が発生し、夜温が高い降雨日の後に灰色かび病が多発、コナジラミ類も一部で発生しています。

着果負担が大きいため、早めの追肥やナスが小さいうちに収穫を行い、草勢の維持に努めましょう。また、3 月以降は温度上昇に伴い生育、収量が増加するため、2 月までに摘葉や、芽の整理を行い、換気、湿度管理等による病害対策を行きましょう。

◇施設キュウリ◇

促成作型は、1 月下旬の出荷量増大で草勢が低下し、果実が細く、曲り果等が発生しています。現在は着果数が少なく、出荷量の増加は 3 月上旬以降の見込みです。草勢の低下によりべと病が発生し、アザミウマ類、ハダニ類、アブラムシ類の害虫の発生も多いです。半促成作型は、2 月初旬を中心に定植され活着は良好です。12 月末の早期定植分が 1 月末から出荷開始しています。3 月上旬から全体的に出荷開始の見込みです。

ハウス内温度の確保、こまめなかん水等により草勢回復に努め、3 月から天敵導入予定のほ場は放飼前の準備を行きましょう。また、温湿度管理によりべと病、菌核病等病害対策を行きましょう。

◇ブドウ◇

ハウス栽培は、超早期加温では 12 月上旬以降、早期加温では 1 月 1 半旬に被覆開始

(昨年並み)し、生育ステージは、早い作型・品種で満開直前となっています。トンネル・露地栽培は、せん定作業が終盤を迎えています。

ハウス栽培においては、被覆開始～発芽直前は、適宜かん水を実施し、ハウス内を高湿度に保ちましょう。発芽後は、日中の高温時(30℃以上)には換気を徹底しましょう。

◇トルコギキョウ◇

1月の出荷量は、昨年よりも少なかったものの平年並みです。販売単価は、大輪・八重系の品種が評価され、平均160円以上と高かったです。春出荷(3～5月)作型の生育は、天候に恵まれて順調で、生育ステージは2次～3次小花の発蕾時期となっており、出荷開始は平年よりも2週間程度早まる見込みです。

品質向上、出荷期の省力化のためほ場での芽摘みを徹底し、開花期は花の小輪化を防ぐため夜温を12℃以上で管理しましょう。灰色かび病は、換気や湿度管理等の対策を徹底しましょう。

◇肉用牛◇

1月の肉牛枝肉単価は、和牛去勢(A4)で前年比99%、過去5年平均比104%と前年並みを維持し、省令価格は、前年比109%、過去5年平均比105%と上昇しました。これは、和牛よりも値頃な交雑種等に消費がシフトしたためです。しかし、TPP発効により、牛肉輸入は急増し、さらに2月1日にEUとのEPAも発効されたため、2月以降は枝肉単価の下落が懸念されています。

厳寒期のため、子牛の防寒対策を徹底しましょう。近隣国では口蹄疫等、国内では豚コレラ等家畜伝染病が続発しているため、飼養衛生管理基準を徹底しましょう。